

幼児流行の病気

病名	症状	流行時期	完治までの期間	留意点・対策	登園許可証の有無
インフルエンザ 【接触感染・飛沫感染】	突然38度以上の高熱を出す。関節痛、悪寒が初めの症状として現れる。次第に風邪のような咳、鼻水の症状が現れる。	A型：9月～1月頃 B型：2月～5月頃	幼児は熱が下がって3日。また発症してから5日間。	接触感染(菌保持者が触ったところを触る等)をするので、普段から手すり・ドアノブ等を触った手で口や鼻をいじらないように子ども達にも伝えたい。また子どもがよく触る所はこまめに除菌すると良い。そして手洗いうがいをしっかり行う事で予防や重症化を防ぐことが出来る。	○
水痘(水ぼうそう) 【飛沫感染】	微熱後、紅斑(赤いブツブツ)→丘疹(少し盛り上がる)→水泡→かさぶたと進行する。強いかゆみもある。発疹は口の中から陰部、頭の中まで全身に出る。	春	平均して1週間。発疹がかさぶたになったら。	ウイルス体液や水泡の飛沫などから感染する。ひっかいて掻き壊さないように、爪は短くしておく。	○
流行性耳下腺炎(おたふく) 【飛沫感染】	ウイルスによる感染症。耳から頬の下にある耳下腺という組織がおたふくの様に腫れて痛みが出る。多くは左右ともに腫れますが、片手のときもある。高熱が出る。	5年に1度流行 2016年は11月～12月	1～2週間で軽快。耳下腺の腫脹がある間はウイルスの排泄が多いので、腫脹が消失したら。耳下腺、顎下線などの腫れが出現した後5日経過。	家で安静にする。頬を冷やす。痛みがひどい場合は食事を軟らかくする。	○
咽頭結膜炎(プール熱) 【飛沫感染】	結膜炎、咽頭痛、発熱。急な発熱で発症し、咽頭炎による喉の痛みが現れる。結膜炎に伴って充血、目の痛み、かゆみ、目やに、まぶしくなったり涙が止まらなくなる。	6～7・8月 10月頃まで	(ねつ・のどの腫れ・目の充血)が治まってから2日経過するまで	喉の痛みでご飯が食べられないことがある。胃腸も弱っているの、消化に良いものを与える。または喉ごしの良いもの。目やには清潔なガーゼなどで取り除く。外出は控えましょう。	○
麻疹(はしか) 【飛沫感染】	熱、咳、鼻水、目やになど風邪のような症状から始まる。この時期にはしかの診断は難しい。高熱が出るが、一旦下がって再び高熱が出ると同時に全身に発疹が出る。	春から初夏にかけて	症状が出てから10日～2週間。熱が下がって3日以降。	熱が続くときは解熱剤や氷枕を持って、快適に過ごせるようにする。食欲がなくなるので水分と消化の良い、口当たりがよいものを。	○
風疹(三日麻疹) 【飛沫感染】	発疹とリンパ節腫脹と発熱。2～3日、38度前後の発熱と同時に発疹が出てかゆみがある。全身に広がり、3日前後で消えます。その後結膜、充血、咽頭痛、頭痛など。	春～初夏にかけて	熱もなく発疹が全て消えたら。	4分の1くらいの人がかかっても症状がはっきりしない場合がある。熱がなく元気でも、発疹が消えるまでは家の中にいること。	○
百日咳 【飛沫感染】	軽い風邪から始まる。発作的にコンコンと長く連続する咳(スタッカートの様)。顔が真っ赤になるまで咳きこんで最後にヒューツと笛を吹くような音をたてて息を吸う。	1年を通して	特有な咳がなくなるまで。診断から3週間くらい。	咳きこんで食べたものを吐くことが多くある。1回の食事の量を少なく回数を多くして消化の良い食べ物を心掛ける。	○
結核 【飛沫・経口・接触感染】	発熱、咳、疲労感、食欲、不振		症状によって、医師が感染がないと認めるまで。		○
溶連菌感染症 【飛沫・接触感染】	喉が痛い。急に38度前後の熱が出るので注意が必要。また舌に赤いブツブツが見られる。(いちご舌)	1年を通して	熱が下がり体調が良くなるまで	溶連菌の感染力が高いのは発症～抗生物質を飲み始めて24時間以内といわれているので、24時間以上経過するとほとんど感染力がなくなるとされている。発熱や発疹が続いている場合は無理をさせないようにすること。	○
手足口病 【飛沫・経口・接触感染】	口の中、手の平、足の裏を中心に痛みを伴う小さな水ぶくれが出来る。また発熱を伴う。	夏～初秋にかけて	3～6日(熱が下がって1日以上経過、また口内炎等の影響がなく普段の食事が取れる事)	口の中にできた発疹が痛いとき、高熱で食事や水分が取れず、おしっここの量が減ったとき、頭痛が強いとき、元気がなく、ぐったりしていたら再度受診。(口内炎のような症状)感染経路が多様であるため、伝染しやすい。タオルなどを別にする等の対策を取った方がよい。	○
RSウイルス 【飛沫・接触感染】	呼吸器系の感染症である。大人は風邪の症状が現れるが、幼児に感染すると重症化する。	秋～冬にかけて	一週間くらい	咳が出始めたならマスクをしたり手で押さえたりするなど配慮をする。	○

病名	症状	流行時期	完治までの期間	留意点・対策	登園許可証の有無
ノロウイルス (流行性嘔吐下痢症) 【接触・経口(糞口)感染】	突然の腹痛、嘔吐、微熱を伴う。嘔吐が落ち着いてきたころに下痢が始まる。	11月～1月にかけて	嘔吐、下痢が治まり、食事が取れ、体力が回復したら。	嘔吐物からウイルスが空気中に舞い、吸い込むと二次感染が起きる。よって嘔吐物を処理した後、その周りに次亜鉛酸ナトリウムを沢山ふりかけ除菌し、新聞紙をかぶせて20～30分放置する。下痢が落ち着いても、便の中には大量のノロウイルスがいるため、その状態で登園すると幼稚園のトイレで感染が広まることが考えられる。下痢が止まって2日以降に登園するのが望ましい。また、ノロウイルスは一度感染したからと言って再度感染しないとは限らない。	○
ロタウイルス (流行性嘔吐下痢症) 【接触・経口(糞口)】	激しい嘔吐や下痢、39度以上の発熱が出る。また白色の便が出ることもある。	2月～4月頃	嘔吐、下痢が治まり、食事が取れ、体力が回復したら。	便の色が白色になることがあり、大量の水様性の下痢が出ることから脱水に陥りやすく注意が必要である。水分が摂れない時には、受診すること。	○
伝染性膿痂疹 (とびひ) 【接触感染】	細菌が皮膚に感染することで発症し、人に伝染る病気。かきむしった手を介して、水膨れが全身に広がる。	1年を通して	広い範囲で水膨れ、びらんが軽快するまで。	水疱から膿が出る間は感染する。家族ともタオルや衣類は共有しない。間違えやすい病気:アトピー、水いぼ、あせも、水ぼうそう	○
伝染性軟属腫 (水いぼ) 【接触感染】	7歳以下の子供に多い皮膚の感染症。直径1～3mm程度のツルツルとした白いイボが数個～数十個、首・胸・わきの下・肘・膝などに出来、痒みを伴うことがある。特徴としてイボの中心がくぼんでいる。	1年を通して	主治医により、感染の恐れがないと認められるまで	イボが潰れることにより、ウイルスが他の部位に付着することで感染が広がるので、潰さないようにする。家族ともタオルや衣類は共有しない。プールや公衆浴場は避ける。	○
マイコプラズマ感染症 【飛沫感染】	初めは発熱、全身倦怠、頭痛、咳。咳は始め、乾いているが経過に伴い咳は徐々に強くなり、解熱後も長く続く。咳がなかなか治らない場合にマイコプラズマ肺炎ということがあり、聴診で異常があると胸のレントゲンを撮る。	12月～1月	熱、咳がなくなり、全身状態が良いこと。	高熱が続き、咳き込みがひどく、元気がなくなったら、かかりつけ医に受診する。	○
ヘルパンギーナ 【飛沫・接触・経口(糞口)感染】	突然高熱で発症してのどの痛み、飲み込み時の痛みを訴える。喉を見ると、扁桃腺の周りが真っ赤になり、水疱や腫瘍が出来る。熱は2～3日で下がるが喉の痛みはさらに2～3日続く。	6月～8月	熱が下がっても口の痛みがなくなるまで4、5日休む。	回復後もウイルスは長期便から排泄されることがある。口の中が痛いときは噛まずに飲めるものを与える。水分補給を十分に作る。	○
伝染性紅斑(リンゴ病) 【飛沫感染】	頬にできる紅色の皮疹(紅斑)であり、平手打ち様紅斑、りんご様紅斑、蝶形紅斑(蝶が羽を広げたような形)などに表現される。また太ももや上腕に赤い斑点やレース状のまだら模様ができる。頬が火照ったり、痒くなったりすることもある。	春～夏	頬に発疹が出てきた時点では感染力がなし	入浴は熱がなく元気なら構わないが、熱い風呂に長く入るとかゆみが強くなって長引くこともある。運動で体が熱くなったり、日光に長く当たるとかゆみが出ることもある。	○
流行性結膜炎 【経口感染】	はやり目。朝起きた時に目が開かないほど目やにの量が非常に多い。目の充血、目がゴロゴロする耳前のリンパ節が腫れて痛みを感じる。咳や熱など風邪に似た症状が出る。		主治医により、感染の恐れがないと認められるまで	主に人の手を介して伝染する。接触感染のため、結膜炎の人が触ったものを触り、その手で目を擦るだけで感染するため、気を付ける。タオルの共有など注意する。	○
腸管出血性大腸菌感染症 【接触・経口(糞口)感染】	軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、さらに著しい血便。		症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了。48時間以降の検便により菌が陰性と確認されるまで	O-157は感染力が強い。通常の食中毒では細菌を100万個単位で摂取しないと感染しないのに対し、わずか100個程度で発症すると言われている。75℃で1分間加熱と十分な手洗いを心掛けること。	○
急性終結性結膜炎 (アポロ病) 【接触・経口感染】	突然の強い目の痛み、ゴロゴロした異物感、異常にまぶしさを感じる。目やに、涙が溢れる等の症状から始まる。	夏～冬	症状により医師が感染の恐れがないと認めたら		○
アデノウイルス 【飛沫感染や接触による感染】	肺炎や、高熱、扁桃腺の腫れ、目の充血、目やに、血尿、胃腸の炎症など。	1年を通して	主要症状が消退した後2日経過するまで	接触感染(菌保持者が触ったところを触る等)をするので、手洗いうがいをしっかり行う事で予防や重症化を防ぐことができる。	○